

令和7年度 国立中央青少年交流の家 教育事業

富士のさと イングリッシュキャンプ

令和7年9月13日(土)～9月15日(月・祝) 2泊3日



1.目的

米軍海兵隊員との様々なシチュエーションでの交流を通して、自分なりのコミュニケーションの仕方を見つけて自信をつけることを目的とする。そのなかで、異なる文化や特徴を持つ人への理解を深めて尊重し合える心を育む。

2.参加者

40名

小学5年生22名、小学6年生10名、中学1年生8名

3.協力

米軍海兵隊諸職種共同訓練センター（以下キャンプ富士と記載）

渉外官1名、通訳・翻訳官1名、米海兵隊員25名

4.事業内容

	6:00	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00
9月13日(土)					受付 (研修館)	コミュニケーション ってなに? (研修館)	昼食 (レストラン)	レクリエーション をしよう! (研修館・ビーチコート 柔道場・剣道場)			BBQをしよう! (野外活動棟)			振り返り① 明日の準備 (研修館)	入浴	就寝 準備	就寝
9月14日(日)	6:30 起床	準備	朝の つとめ	朝食 (レストラン)	移動 準備	キャンプ富士によう! (米軍海兵隊諸職種共同訓練センター)					振り返り② 自由時間 (研修館)	夕飯 (レストラン)	夕食 (レストラン)	たき火でほっこりタイム (野外活動棟)	入浴	就寝 準備	就寝
9月15日(月・祝)	6:30 起床	準備	朝の つとめ	朝食 (野外活動棟)	Party準備 (研修館・野外活動棟)		Party Time!! ～米海兵隊員を料理で もてなそう～ (野外活動棟)		振り返り 閉会式 (研修館)								

【事業1日目】9月13日(土)

(1) コミュニケーションってなに?

参加者がコミュニケーションの方法を学ぶことを目的に、「相手と仲良くなるためには」というテーマで、レクリエーションを取り入れた講義を実施した。参加者は楽しみながら打ち解け合い、今後のキャンプに向けたコミュニケーションの目標を立てることができた。一方で、レクリエーションの時間をもう少し多く設けた、体験的な講義でもよいのではないかという課題も残った。また、本講義からの3日間を通して、参加者自身の気持ちやコミュニケーションに関する振り返りを、ワークシートを用いて計5回実施した(結果は「6.成果と課題」を参照)。参加者は各回で自身の活動を振り返り、班内での発表を通して班ごとに良い雰囲気形成することができていた。

(2) レクリエーションをしよう!

参加者が講義で学習したコミュニケーションを活かし、米海兵隊員と打ち解けることを目的として、交流の家の職員および法人ボランティアによるレクリエーションを実施した。内容は「じゃんけん」「ネームパス」「BINGO」「ジェスチャーゲーム」「ボールリレー」など、頭を使うものから体を動かすものまで幅広く行った。参加者はレクリエーションを通じて米海兵隊員と積極的に交流し、良好な関係を築くことができた。一方で、実施時間が長かったため、一部の参加者には疲労の様子も見られた。

(3) BBQ をしよう！

参加者がコミュニケーションを繰り返し、成功体験を得るとともに米海兵隊員とより親しくなることを目的に、野外炊事（BBQ）を実施した。食材を獲得するための「大かるた大会」では、レクリエーション疲れの影響もあり、一部の参加者のみの盛り上がりにとどまった。一方、野外炊事が始まると、参加者は米海兵隊員と積極的にコミュニケーションを取りながら、班ごとに協力して準備や片付けを行う様子が見られた。また、各班に異なる食材を配分したところ、班の間で料理を分け合う様子が見られ、良好なコミュニケーションが生まれていた。

事業1日目の様子



コミュニケーションってなに？



レクリエーションをしよう！



BBQ をしよう！①



BBQ をしよう！②

【事業2日目】 9月14日（日）

(4) キャンプ富士に行こう！

参加者は、1 日目に交流を深めた米海兵隊員が駐在するキャンプ富士を訪問した。入場時の入国審査では、参加者が緊張しながらも米海兵隊員と英語でやり取りする様子が見られた。施設内では、パトカーや消防車、装甲車両の見学、体育館でのレクリエーション、レストランでの食事やドルによる支払い体験など、多様な活動を行った。訪問している間、参加者は英語表記の環境に緊張しつつも、積極的に体験を楽しむ姿が見られた。

(5) たき火でほっこりタイム

参加者が身に付けたコミュニケーションを自由に発揮し、自信を深めることを目的に、キャンプ富士スタッフが企画したたき火を囲んだレクリエーションや、交流の家の職員による全体レクリエーションをし、最後にはマシュマロを食べながら交流をした。レクリエーションでは暗所での実施により運営面での支障も見られたが、終了時には参加者全体に一体感が生まれていた。また、後半のマシュマロを食べる時間では、参加者が米海兵隊員とこれまでより長く会話を交わし、日中とは異なる落ち着いた雰囲気の中で交流する様子が見られた。

事業2日目の様子



キャンプ富士にいこう！①



キャンプ富士にいこう！②



たき火でほっこりタイム①



たき火でほっこりタイム②

【事業3日目】 9月15日（月・祝）

(6) Party Time！！～米海兵隊員を料理でもてなそう～

参加者が米海兵隊員をもてなす立場となり、料理や装飾を与えられた食材や道具の中から企画・準備する「Party Time！！」を実施した。企画段階では選択肢が多いため子供たちが戸惑うことも予想されたが、3 日間のキャンプを通じて培った経験を活かし、参加者同士や米海兵隊員とコミュニケーションを取りながら、相手の気持ちに寄り添って準備を進めることができた。Party 中は、参加者主体で用意した料理や装飾、ミニゲームを楽しみ、お互いを称賛し合う様子が見られた。片付けでは、一部の参加者が取り組まない様子も見られたが、周囲の参加者が片付けに巻き込むことで、良好な雰囲気のまま活動を終えることができた。

事業3日目の様子



Party Time！！①



Party Time！！②



Party Time！！③



Party Time！！④

5.調査（アンケート/ワークシートともに回収率 100%）

（1）事業に対する評価

Q この事業全体の満足度はいかがでしたか？

満足	やや満足	やや不満	不満
36 名（90%）	3 名（7.5%）	1 名（2.5%）	0 名（0%）

Q 楽しかったプログラムをすべて選んでください（複数可）

レクリエーション①（じゃんけん/ネームパス/BINGO）	35 名/計 40（87.5%）
レクリエーション②（ジェスチャーゲーム/ボールリレー） ※法人ボランティア実施	38 名/計 40（95%）
BBQ をしよう！	37 名/計 40（92.5%）
キャンプ富士に行こう！	40 名/計 40（100%）
たき火でほっこりタイム ※キャンプ富士スタッフが一部分のレクリエーションを実施	38 名/計 40（95%）
Party Time！！～米海兵隊員を料理でもてなそう～	38 名/計 40（95%）

Q イングリッシュキャンプにまた参加したいと思いますか？

思う	わからない	あまり思わない
35 名（87.5%）	5 名（12.5%）	0 名（0%）

（2）コミュニケーションに対する評価

Q 周りの友達と話をすることは多かったですか？

多かった	けっこうあった	ふつう	少なかった
32 名（80%）	8 名（20%）	0 名（0%）	0 名（0%）

Q マリーンの人と話をすることは多かったですか？

多かった	けっこうあった	ふつう	少なかった
26 名（65%）	10 名（25%）	4 名（10%）	0 名（0%）

Q コミュニケーションについて、どう思いましたか？

自信がついた	難しいけど頑張れた	もっと練習したい	あまりうまくできなかった
22 名（55%）	15 名（37.5%）	3 名（7.5%）	0 名（0%）

Q 心に残ったこと、楽しかったこと、大変だったことなど自由にたくさん書いてください（一部）。

マリーンの人たちとたくさん遊んだこと。キャンプで「ましゅまろ」を食べたこと。泊まったこと。ハンバーガーを食べたこと(大きい)。びっくりしたことは、アメリカのドリンクの「S」はとても大きい。戦車に乗ったこと。大変だったことは、BBQ のたき火けむりが目に入り、さぎょうしにくくなったこと。BBQ やカレー作り(三日目)がとても楽しく、とてもおいしかった。みんなと楽しく話せ、笑える3日間にできてよかった。
マリーンのみんなに料理をしたことが楽しかったけど、火がつかなかったり、切る大きさがわからなくなったりした。とにかく楽しかった！
最初の時は不安なことが多くあったけど、班のみんなやマリーン達のおかげでとても楽しむことができました！今度英検をやるのでイングリッシュキャンプで学んだこと、やったことをいかしたいと思います。英語上達も目指したいなとおもいました。
レクでみんなと遊んだり、キャンプ富士でふだん慣れない車に乗ったりするのが楽しかった。マリーンの人たちとしゃべるときなんて言っているのか聞くのが難しかった。最初はすごく不安だったけどし

やべってくれたりして安心できた。みんなとしゃべることが楽しかった。

最初はイングリッシュキャンプ緊張したけれど、コミュニケーションをとっていくうちに、緊張がほぐれていってだんだん楽しくなってきたし、イングリッシュキャンプは長かったけれど、自分の班以外にも友達ができて最終的には最高の気分で終われる。参加して英語をもっとうまくなって、コミュニケーションをしたい。また来年イングリッシュキャンプに応募して参加したいです。

マリーンと話すことが多くて、しかも言語が違うから、話すのが難しかったけど、わかる質問もあって良かった。そしてマリーンと友達になれて良かった。

(3) ワークシートについて

①概要

参加者が自分なりのコミュニケーションの方法を振り返り、新たな気づきを得ることを目的に、計5回のワークシート記入を実施した。その中で、「得意なコミュニケーション」というテーマについては、「コミュニケーションってなに？」の講座後から計4回にわたって取り組み、参加者におけるコミュニケーション意識の変容の記録を収集した。そのほかにも、「今の気持ち」「今日楽しかったこと」「これからの楽しみなこと」など、参加者のその時々気持ちを収集した。ワークシート記入後には班ごとに発表を行い、共有する時間を設けた。

②結果

「得意なコミュニケーション」の回答数の変容

増加	停滞	減少
26名(65%)	14名(35%)	0名(0%)

回答内容の変容については、前半(第2・第3回)では「笑顔」や「話や英語を聞くこと」といった、聞く姿勢や受け身的な能力に関する回答や、「あいさつ」「ハイタッチ」といった簡単なアクションが多く見られた。一方で、後半(第4・第5回)にかけては、「英語を話す」「目を見て話す」「教える」といった、自ら主体的に行うコミュニケーションが多く挙げられるようになった。

また、回答用紙に記された文字については、徐々に大きくなったり形が崩れたりする傾向が見られた。加えて、回を重ねるごとに文字数が増加したり、落書きが見られるようになったりするなど、参加者の緊張が和らいでいった様子もうかがえた。その一方で、回答内容はより具体的かつ詳細に記入されることが多くなり、発表に際して相手に伝えようとする意識の高まりがうかがえた。

6.成果と課題

(1) コミュニケーションについて

本事業において参加者は、交流を通して「自分なりのコミュニケーションの仕方を見つけること」や「自信をつけること」を目的の一つとして取り組んだ。日を追うごとに、参加者がボランティアや米海兵隊員に自ら話しかける様子が見られ、アンケートやワークシートの結果からもその傾向が裏付けられた。これにより、キャンプを通じて知らない人や異文化の人との関わりに積極性が増していったと考えられる。特に、アンケートの「コミュニケーション」に関する評価項目において、周囲の友達や米海兵隊員との関わりについて消極的な回答が見られなかったことは、参加者全員が積極的にコミュニケーションに挑戦でき、成功体験があったことを示している。

本事業では英語学習を主のテーマから外したものの、参加者にとってコミュニケーションへの取り組みが結果的に英語への挑戦にもつながった。昨年度は年齢による英語習熟度の差が課題となっていたが、今年度はテーマを「コミュニケーション」としたことで、参加者それぞれの能力や気持ちに応じた英語活用が可能となった。

(2) タイムスケジュールについて

昨年度は、活動プログラムにおいて想定以上に時間を要したり、逆に時間が余りすぎてしまったりするが課題となっていた。今年度は担当職員による各活動プログラムのリハーサルの実施や、より詳細な計画立案を行ったことで、全体を通して円滑なスケジュール運営が可能となった。特に「キャンプ富士にいこう!」では、事前のキャンプ富士スタッフとの打合せにより見学場所の調整や削減を行った結果、参加者にとっても過ごしやすく、スケジュール面でもスムーズな進捗が実現できた。また、物品準備の面においても、通常より早い段階から取りかかったことで、当日における不足物品の発生を減らすことができた。

(3) 事業広報について

参加者募集では、例年の学校への配布に加えて、地域の公共施設やスーパーマーケット、コンビニエンスストアにもチラシを配架した。その結果、参加者の中にはそれを見て応募した者もあり、一定の成果が得られた。一方で、各所における広報のルール調整や、広報活動が応募に与える効果の検証については、今後の課題として残された。

また、交流の家の Instagram を活用し、募集案内や事業中の活動の様子を発信した。特に活動の様子を投稿を目的にフォローした保護者も見られ、SNS を通じた情報発信として一定の成果を収めることができた。一方で、初めての取り組みであったことから、投稿内容や頻度について十分に協議できなかった点は課題として残った。

(4) 事業全体の構成について

本事業では、実践と振り返りのサイクルを通して、子供たちが徐々に自発的に行動できるようにプログラムを構成した。その集大成が最終日の「Party Time！！」であり、参加者は3日間の体験を基に、自ら企画・準備を行った。例えば、「レクリエーションをしよう」で得た学びはミニゲームの企画に、「BBQ をしよう！」では料理の仕方や具材の工夫に、「キャンプ富士訪問」ではおもてなしの経験に、「たき火でほっこりタイム」では飾りつけや班を越えた一体感の形成に、それぞれ反映されていた。「Party Time！！」は、3日間のプログラムで培った経験を子供たちが主体的に発揮する場となり、本事業の成果を表す活動となった。

一方、事業後の振り返りにおいては、各プログラムにおいて参加者がより主体的に行動できる場を増やす必要があるとの意見も挙がった。今後は、実践と振り返りのサイクルや各プログラムの難易度を調整することで、さらに質の高い事業運営につなげていきたい。

(5) 子供の体力低下について

活動を通して大きな怪我などは発生しなかったものの、想定以上に参加者の疲労が見られた。これは、子供たちの体力面の変化も影響していると考えられる。今後は、全員一斉で実施するプログラムに偏らず、参加者一人ひとりの状況や体力に応じた活動を取り入れることで、より安全で効果的なプログラム運営を行う必要がある。